

管内市町村の概要



釧路・根室管内 2市10町1村

総面積 / 14,497.86km² (全道の17.4%)

総人口 / 301,111人 (全道の5.7%)

釧路総合振興局管内

面積 / 5,997.47 km² 人口 / 227,141人



釧路市 ■面積 / 1,363.29 km² ■人口 / 167,876人

ひがし北海道の拠点として経済・文化・医療の中心を担う。主力の酪農、水産業による豊富な食材と釧路湿原、阿寒摩周の2つの国立公園をはじめとする雄大な自然などの地域資源を生かし、観光の振興や移住・長期滞在の促進を図り、まちづくり基本構想に掲げる「つながる まち・ひと・みらい」ひがし北海道の拠点都市「釧路」の実現に向けたまちづくりを進めている。
●市名の由来 アイヌ語「クシベツ」あるいは「クシナイ」(通り抜けることのできる川の意) から転訛 (他諸説あり)



釧路町 ■面積 / 252.66 km² ■人口 / 19,556人

釧路湿原国立公園と厚岸道立自然公園の2つの自然公園を有する一方で、国道沿いに郊外型ショッピングゾーンが形成されている。また、北部の市街地周辺部では、「ほくげん大根」など野菜生産や酪農・畜産が行われ、南部の太平洋岸では、「仙鳳趾(せんぼうし)」の牡蠣など漁業が盛ん。最近では別保公園にあるロ・バザールでの地元農・水産品の直売が人気である。
●町名の由来 アイヌ語「クシユル」(越える道・通る道の意)から転訛(他諸説あり)



厚岸町 ■面積 / 739.27 km² ■人口 / 9,173人

江戸時代から東北海道の拠点として発展してきた歴史をもつ。恵まれた自然環境の下、独特な地形を背景に発展してきた基幹産業である漁業と酪農の町。食文化の推進を図り、道の駅である「コンクリエ」を中心に、特産品の牡蠣や昨今注目を集める「厚岸ウイスキー」を活かし、食と観光のまちづくりを進めている。
●町名の由来 アイヌ語の「アッ・ケ・ウシ・イ」(アッ=オヒョウニシの皮を、ケ=剥く、ウシ=いつもする、イ=処) であるという。



浜中町 ■面積 / 423.63 km² ■人口 / 5,752人

漁業と酪農が主産業の町で、天然昆布は日本有数の生産量を誇り、恵まれた気候で生産される良質な生乳は有名アイスクリームメーカーの原料に指定される。平成5年に霧多布湿原がラムサール条約登録湿地、平成13年には北海道遺産に選定される。また、太平洋沿を一望できる温泉「ゆゆう」があり、交流の場として利用されている。
●町名の由来 アイヌ語「オタ・ノシケ」(砂浜の中央の意)を意訳したもの



標茶町 ■面積 / 1,099.37 km² ■人口 / 7,496人

酪農が中心の町であり、釧路湿原国立公園の約43%を占める。町営育成牧場は2,128haと全国随一の広さを誇り、牧場内の360度地平線が見えるスケールの大きな「多和平」の牧歌的な風景は、観光名所の一つである。また、町内にはモール泉が湧き出る多数の温泉施設が点在しており、町内外問わず多く利用されている。
●町名の由来 アイヌ語「シベツチャ」(大きな川のほとりの意) から転訛



弟子屈町 ■面積 / 774.33 km² ■人口 / 7,082人

阿寒摩周国立公園の56%を占める。摩周湖や屈斜路湖、硫黄山など全国でも有数の景勝地を抱え、川湯温泉、摩周温泉などの名湯を有する観光の町。また、第一次産業にも力を入れており、地域ブランドである摩周メロンや摩周そばは、北のクリーン農産物表示制度に登録される。近年は、町の財産である広大な自然を未来に残すため、環境保全に力を入れている。
●町名の由来 アイヌ語「テシカガ」(岩盤の上の意) から転訛



鶴居村 ■面積 / 571.80 km² ■人口 / 2,506人

酪農が基幹産業。釧路湿原国立公園に隣接したタンチョウが舞う自然豊かな村。平成20年の「日本で最も美しい村」連合への加盟を契機に、地域資源の保護と地域経済の発展に寄与する活動を進めている。また、大正末期から昭和40年代まで開拓を支えた簡易軌道が、平成30年に北海道遺産「北海道の簡易軌道」として選定され、貴重な地域資源として注目されている。
●村名の由来 タンチョウの生息地にちなんで名付けられたもの



白糠町 ■面積 / 773.13 km² ■人口 / 7,700人

第一次産業を中心とした町で、漁業では太平洋沖の暖流と寒流が交わる絶好の漁場を有し、1年を通じて、様々な海産物が水揚げされる。農業も「しそ焼酎高麗」の原料である紫蘇をはじめ、チーズや羊肉、鹿肉を生産している。また、近年ではアイヌ文化を体験・交流できる施設「ウレシバチセ」を拠点として、アイヌを通じた魅力発信にも力を入れている。
●町名の由来 アイヌ語「シラリ・カ」(平緩を越えるの意) から転訛

根室振興局管内

面積 / 8,500.39 km² 人口 / 73,970人



根室市 ■面積 / 506.25 km² ■人口 / 25,425人

太平洋とオホーツク海に面した根室半島にある漁業を中心とした水産業のまち。北方領土返還要運動原点の地。花咲ガニやさんま(10年連続水揚げ量日本一)など新鮮な海の幸とラムサール条約湿地に登録されている国内屈指の野鳥の宝庫「風蓮湖、春国岱」を有する最東端の市である。近年、野鳥観察を目的に道内はもとより道外・海外からも多くの観光客が訪れる。
●市名の由来 アイヌ語「ニムオロ」(樹木が繁茂する所の意)から転訛(他諸説あり)



別海町 ■面積 / 1,319.63 km² ■人口 / 14,975人

広大な面積を誇る、酪農と漁業が中心の町。広大な草地と豊富な水資源を生かし、大型酪農地帯を展開、各種乳製品のほか、北海シマエビ・秋鮭・ホタテなどの海産物が有名である。平成17年11月、国際的に重要な湿地を保全するための「ラムサール条約湿地」に、野付半島・野村湾、風蓮湖が登録された。
●町名の由来 アイヌ語「ベツ・カイエ」(川の折れ曲がっていること) から転訛



中標津町 ■面積 / 684.87 km² ■人口 / 23,389人

基幹産業は酪農。根室振興局管内の商業都市。阿寒湖、屈斜路湖、摩周湖を空から眺めながら着陸する中標津空港は、雄大な自然を誇る知床観光、根室観光の玄関口となっている。
●町名の由来 日本語の「中」とアイヌ語の「シ・ベツ」(大きな川の意)との組み合わせ



標津町 ■面積 / 624.69 km² ■人口 / 5,236人

漁業と酪農の生産の町。安心・安全な地場産品を消費者に届ける「地域HACCP」や地域の自然、産業を活用した体験型観光「標津版エコ・ツーリズム事業」に取り組んでいる。また、平成19年10月には、将来にわたって美しい地域であり続けるため「日本で最も美しい村」連合へ加盟した。
●町名の由来 アイヌ語「シ(大きい)ベツ(川)」を意味している。



羅臼町 ■面積 / 397.72 km² ■人口 / 4,945人

沿岸漁業資源を背景とした漁業と世界自然遺産「知床」を有する観光の町。温泉が豊富な地域でもある。水揚げされた鮮魚は「海洋深層水」を利活用し衛生管理に努めている。知床連峰、知床峠から望む国後島などの景勝地に恵まれており、国後島までは近いところで、25kmの距離にある。
●町名の由来 アイヌ語「ラウシ」(獣の骨のある所の意)から転訛

帯広開発建設部で実施してきた「十勝港」及び「大津漁港」の整備については、平成30年度から釧路開発建設部が所管して、事業等の実施を進めています。

広尾町 ■面積 / 596.54 km² ■人口 / 6,654人 **豊頃町** ■面積 / 536.71 km² ■人口 / 3,146人

※面積は令和元年10月1日現在全国都道府県市区町村別面積調(国土地理院調べ)

根室市の面積には、歯舞群島の面積 94.84 km²が含まれている。風蓮湖(59.01 km²)は、水面が境界未定のため、根室市と別海町に含めず計のみに含めた。釧路町・厚岸町は境界の一部が未定のため、参考値である。根室振興局管内の面積計には、色丹村の面積 250.57 km²(色丹島)、泊村の面積 535.35 km²及び留別村の面積 954.55 km²(国後島)、並びに留別村の面積 1,442.82 km²、紗那村の面積 968.32 km²及び養取村の面積 756.61 km²(択捉島)が含まれている。

※人口は令和2年1月31日現在住基ネットにおける人口【参考値】(北海道総合政策部地域振興局市町村課調)